

序

本邦では、2004年に2年間の医師臨床研修制度が導入れ、医学部卒業後2年間の初期臨床研修が義務化されました。本制度の基本理念は、「将来専門とする分野にかかわらず、医学および医療の果たすべき社会的役割を認識し、一般的な診療において頻繁にかかわる負傷または疾病に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力を身に付けること」とされています。すなわち、2年間を通じて基礎的な広い範囲の臨床修練を積むことによって、将来の専門領域にかかわらず医師として必要な基礎的能力を養うことにその目的があります。具体的には、内科、外科、救急、麻酔科、小児科、産科、精神科および地域保健・医療については、必ず研修を行うことが規定されており、その研修期間については、内科で6カ月以上、外科および救急部門で6カ月が望ましいとされています。研修の目標は、厚生労働省の新臨床研修医ガイドラインに詳細に記載されていますが、具体的な研修の進め方については、それぞれの修練施設に任せられているのが現状です。

本書は、2年間の初期臨床研修期間の外科研修における研修の進め方とその目標について具体的に説明しました。外科診療は手術を中心としており、手術前の評価と手術方針の決定、手術手技、手術後の管理などが研修内容の要点となります。本書は、総論と各論の2部からなりたち、具体的に外科修練において学ぶべきことを解りやすく説明しました。外科領域としては、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科、整形外科などを含んでおり、外科研修を広く学ぶうえで適した内容としました。本書は、将来進む診療科にかかわらず外科診療の基本を身につけるうえに役立つ本として構成しましたが、将来外科系診療科を希望する初期研修医のニーズにも応えられるよう各論的内容も豊富に構成いたしました。重要な点はチェック

シートで確認できるようにするとともに、イラスト・写真を多用して解説し、到達目標が適切に身につけられるように配慮して全体の構成をデザインしました。また、新たな試みとして米人外科医にも編集に加わっていただき、近年国際学会などで必要とされている英語によるプレゼンテーションについて、初期研修期間に興味をもっていただけるように、特別に1つの項目を設けました。

外科研修期間には、手術に助手として参加するとともに、皮膚縫合など初期研修医にも施行できる手技については積極的に習得することを心がけてください。本書が、外科診療のベーシックな修練を受ける際に役立つことを願っております。

2007年12月吉日

小西 文雄
安達 秀雄
Alan Lefor